

様式3
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻	5人	2人	1人	1人	9人	6人	8人	0人	42人	11.0人	
計	5人	2人	1人	1人	9人	6人	8人	0人	42人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基礎	数学	15	竹歳 賢一	兼任
基礎	科学的思考の基礎	物理学	15	竹歳 賢一	兼任
基礎	科学的思考の基礎	生物学	15	平田 孝	専任
基礎	科学的思考の基礎	化学	15	三井 哲裕	兼任
基礎	科学的思考の基礎	生活科学	15	吉井 珠代	兼任
基礎	科学的思考の基礎	統計学基礎	15	大谷 昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	医療統計学	15	大谷 昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	情報リテラシー入門	15	大谷 昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	健康科学入門	15	小島 理永	兼任
基礎	人間と生活	国語表現法	15	川合 洋子	兼任
基礎	人間と生活	文章表現法	15	林崎 治恵	兼任
基礎	人間と生活	論文読解法	15	川合 洋子	兼任
基礎	人間と生活	論文作成法	15	川合 洋子	兼任
基礎	人間と生活	文学	15	林崎 治恵	兼任
基礎	人間と生活	教育学	15	森 由香	兼任
基礎	人間と生活	心理学	15	田端 拓哉	兼任
基礎	人間と生活	社会学	15	渡辺 翔平	兼任
基礎	人間と生活	社会福祉学	15	石川 肇	兼任
基礎	人間と生活	コミュニケーション論	15	田端 拓哉	兼任
基礎	人間と生活	人間関係学	15	藪中 佑樹	兼任
基礎	人間と生活	接遇技術演習	15	西川 信子	兼任
基礎	人間と生活	笑い学	15	岡田 守弘	兼任
基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅰ (動物介在療法等)	10	野口 裕美	専任
基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅱ (絵画療法等)	15	有賀 喜代子 叶 雅夫	兼任

基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅲ (音楽療法等)	15	巽 成己	兼任
基礎	人間と生活	健康科学	15	井上 直人 西田 昌平	兼任
基礎	人間と生活	医学英語	15	目片 幸二郎	専任
基礎	人間と生活	基礎英語	15	伏木 真理子	兼任
基礎	人間と生活	英語	15	スコット	兼任
基礎	人間と生活	日常英語	15	スコット	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	小西啓悦	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	機能解剖学Ⅰ	15	小西啓悦	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅱ	30	小西啓悦	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	機能解剖学Ⅱ	15	小西啓悦	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	人体解剖学	15	小西啓浩	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学Ⅰ	30	三谷 章	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	生理学Ⅱ	30	三谷 章	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動学入門	15	野口裕美	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動学	15	田丸佳希	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動学実習	24	田丸佳希	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	人間発達学	15	宮嶋愛弓	専任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	発達心理学	15	四辻伸吾	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	臨床心理学	15	森石加世子	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	15	戸田好信	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内科学	15	藤井 隆 橋本 章司	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	整形外科	15	木村友厚	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	神経内科学	15	植木秀伍	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	精神医学	15	高橋 隼 正木 慶大 嶋 健作	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床精神医学	15	高橋 隼 正木 慶大 嶋 健作	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	小児科学	15	松尾康史	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	スポーツ医学	15	大久保衛 橋本 雅至	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	脳神経外科学	15	細見晃一	兼任

専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	老年医学	15	金馬敬明	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテー ション医学	8	森永敏博	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	医学概論	8	廣島和夫	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	公衆衛生学	8	長野 聖	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急法	8	木下 隆	兼任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテー ション概論	8	森永敏博	兼任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	理学療法概論	15	長野 聖 川崎 純	専任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	基礎看護学 概説	8	藤永新子 江島仁子 宇野真由美 佐藤寿哲 富川明子 記村聡子	兼任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	障害者福祉論	8	石川 肇	兼任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	チーム医療論	8	雨夜勇作 野口裕美	専任
専門基礎	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	死生学	8	桑原英之	兼任
専門分野	基礎作業療法	作業療法概論 I	15	杉原勝美	専任
専門分野	基礎作業療法	作業療法概論 II	15	田丸佳希 川上永子	専任
専門分野	基礎作業療法	作業療法入門	15	目片幸二郎 杉原勝美 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	基礎作業療法	基礎作業学	8	目片幸二郎	専任
専門分野	基礎作業療法	基礎作業学 実習	15	田丸佳希 亀井大作	専任
専門分野	基礎作業療法	社会活動演習	24	宮嶋愛弓	専任
専門分野	基礎作業療法	作業療法研究法	8	宮嶋愛弓	専任
専門分野	基礎作業療法	作業療法ゼミナ ール I	15	杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任

専門分野	基礎作業療法	作業療法ゼミナールⅡ	15	宮嶋愛弓 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 亀井大作	専任
専門分野	基礎作業療法	作業療法ゼミナールⅢ	15	宮嶋愛弓 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 亀井大作	専任
専門分野	作業療法管理学	作業療法管理学	15	亀井大作 目片幸二郎 野口裕美	専任
専門分野	作業療法評価学	身体機能評価学	30	亀井大作	専任
専門分野	作業療法評価学	身体機能評価学実習	24	杉原勝美 目片幸二郎 亀井大作	専任
専門分野	作業療法評価学	精神機能評価学	15	西田斉二	専任
専門分野	作業療法評価学	精神機能評価学実習	24	西田斉二	専任
専門分野	作業療法評価学	発達機能評価学実習	24	宮嶋愛弓	専任
専門分野	作業療法治療学	作業適用学	15	目片幸二郎	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学総論	15	川上永子	専任
専門分野	作業療法治療学	日常生活技術学	15	川上永子	専任
専門分野	作業療法治療学	日常生活技術学実習	24	目片幸二郎	専任
専門分野	作業療法治療学	福祉用具学実習	24	野口裕美	専任
専門分野	作業療法治療学	神経系障害治療学	15	川上永子	専任
専門分野	作業療法治療学	神経系障害治療学実習	24	川上永子	専任
専門分野	作業療法治療学	運動器系障害治療学	15	杉原勝美	専任
専門分野	作業療法治療学	運動器系障害治療学実習	24	杉原勝美 岩槻 厚	専任 兼任
専門分野	作業療法治療学	精神障害治療学	15	西田斉二	専任
専門分野	作業療法治療学	精神障害治療学実習	24	西田斉二	専任
専門分野	作業療法治療学	老年期障害治療学演習	24	杉原勝美	専任

専門分野	作業療法治療学	発達障害治療学	8	宮嶋愛弓	専任
専門分野	作業療法治療学	発達障害治療学実習	15	宮嶋愛弓	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法義肢装具学実習	24	田丸佳希	専任
専門分野	作業療法治療学	職業リハビリテーション論	8	野口裕美	専任
専門分野	作業療法治療学	物理療法学	15	川崎 純	専任
専門分野	作業療法治療学	集団活動演習	15	西田斉二 小川泰弘	専任 兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法学演習Ⅰ	15	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法学演習Ⅱ	15	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法学特論Ⅰ	15	宮嶋愛弓 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 亀井大作	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法学特論Ⅱ	15	川上永子 杉原勝美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓	専任
専門分野	作業療法治療学	スポーツリハビリテーション概論	15	川崎 純 中嶋明子	兼任 兼任

専門分野	作業療法治療学	障がい者スポーツリハビリテーション学	15	川崎 純	専任
専門分野	地域作業療法学	地域リハビリテーション原論	8	野口裕美	専任
専門分野	地域作業療法学	地域作業療法学	15	野口裕美	専任
専門分野	地域作業療法学	リハビリテーション工学	8	三井哲裕	兼任
専門分野	地域作業療法学	地域リハビリテーション研究	8	雨夜勇作 野口裕美	専任
専門分野	地域作業療法学	海外地域リハビリテーション実習	24	青木 修	専任
専門分野	臨床実習	臨地見学実習 I	24	目片幸二郎	専任
専門分野	臨床実習	臨地見学実習 II	24	杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	臨床実習	臨床評価実習	96	宮嶋愛弓 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 川上永子 西田斉二 亀井大作	専任
専門分野	臨床実習	総合臨床実習	384	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	臨床実習	地域リハビリテーション実習 I	24	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	臨床実習	地域リハビリテーション実習 II	24	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任
専門分野	臨床実習	地域リハビリテーション実習 III	24	川上永子 杉原勝美 目片幸二郎 野口裕美 田丸佳希 西田斉二 宮嶋愛弓 亀井大作	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨地見学実習 I	1年 前期	リハビリテーション概論	1年 前期
臨地見学実習 I	1年 前期	理学療法概論	1年 前期
臨地見学実習 I	1年 前期	作業療法概論 I	1年 前期
臨地見学実習 I	1年 前期	基礎作業学	1年 前期
臨地見学実習 I	1年 後期	基礎作業学実習	1年 後期
臨地見学実習 II	1年 後期	作業療法概論 II	1年 後期
臨床評価実習	2年 前期	身体機能評価学	2年 前期
臨床評価実習	2年 前期	精神機能評価学	2年 前期
臨床評価実習	2年 後期	身体機能評価学実習	2年 後期
臨床評価実習	2年 後期	精神機能評価学実習	2年 後期
臨床評価実習	2年 後期	発達機能評価学実習	2年 後期
臨床評価実習	2年 後期	作業療法治療学総論	2年 後期
臨床評価実習	3年 前期	作業適用学	3年 前期
臨床評価実習	3年 前期	日常生活技術学	3年 前期
総合臨床実習	2年 後期	地域リハビリテーション原論	2年 後期
総合臨床実習	3年 前期	福祉用具学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	神経系障害治療学	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	運動器系障害治療学	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	精神障害治療学	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	老年期障害治療学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	発達障害治療学	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	作業療法義肢装具学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	職業リハビリテーション論	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	地域作業療法学	3年 前期
総合臨床実習	3年 後期	神経系障害治療学実習	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	運動器系障害治療学実習	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	精神障害治療学実習	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	発達障害治療学実習	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	地域リハビリテーション研究	3年 後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点・自己検評価委員会
委員名（委員長）	学長
組織の開催頻度	2ヵ月に1度
組織の取り組み内容	・自己点検・評価の基本方針及び実施計画の策定に関する事項
	・自己点検・評価結果報告書の作成及び公表に関する事項
	・自己点検・評価に基づく改善策等の推進
	・認証評価の受審に関する事項
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://un.shijonawate-gakuen.ac.jp/guide/disclosure.html ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	リハビリテーション学部教務委員会
	委員構成等	各専攻の教務委員
	改善の仕組みの実際	リハビリテーション学部教務委員会で、全シラバスを点検し、科目担当教員に適宜修正を依頼。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

大学共通のシラバスの手引きを基にシラバスを作成し、教務委員会でシラバスを点検している。また学生に対して授業評価アンケートを実施し、授業改善のためのフィードバックをFD委員会から科目担当教員へ実施し、内部質保証に努めている。